

Hypertrophic Lichen Planus の 2 例

おお 大 ふじ 藤 さとし 聡

キーワード：Hypertrophic Lichen Planus, 肝疾患, 薬疹

はじめに

Hypertrophic Lichen Planus (HLP) は下腿、足関節に好発する扁平苔癬の異型である。高齢者に多く、角質増殖して隆起しかゆみが強いことが特徴である。病理像では通常の扁平苔癬がもつ特徴とともに表皮肥厚が特徴的である。今回 HLP の 2 例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例 1

症例：73歳，男性

主訴：両側手背と下腿の皮疹

家族歴：なし

既往歴：十二指腸癌・甲状腺機能低下症・アルコール性肝硬変・肝細胞癌

現病歴：およそ 5 ヶ月前より両側の手背と下肢に痒みを伴う発疹があった。発疹は次第に隆起してきた。ランソプラゾール スピロラクトン ウルソデオキシコール酸 ゾルピデム酒石酸塩 シアナミド パンクレリパーゼ T4 水和物を服用していた。

初診時現症：両側の手背と下腿から足背に長径 6

cm までの類楕円形あるいは多角形の角化性扁平結節が多発していた。発疹は強いかゆみを伴っていた (図 1)。結節に周囲は不正形の色素斑が散見された。

病理組織型的所見：角層は小範囲に錯角化のある過角化で、顆粒層の肥厚があった。表皮突起は鋸歯状変化を示していた。表皮下層を中心に Civatte bodies が散見された。真皮浅層に帯状のリンパ球浸潤があった。少量のリンパ球が表皮内へ浸潤していた (図 2)。

治療および経過：当初はフェキサフェナジン塩酸塩ならびにケトチフェンフマル酸塩を内服し、クロベタゾールプロピオン酸エステルを外用したが



図 1 症例 1 の臨床像

右下腿に類楕円形あるいは多角形の角化性扁平結節がある。結節の周囲には不正形の色素斑が散見される。

Satoshi OFUJI

雲南市立病院皮膚科

連絡先：〒699-1223 雲南市大東町飯田96-1

雲南市立病院皮膚科